



**Data**

監督：鄭保瑞（ソイ・チェン）  
 原作・脚本：橋本以蔵『軍鶏』  
 出演：余文樂（ショーン・ユー）／  
 郭品超（ディラン・クオ）／  
 魔裊斗／石橋凌／吳鎮宇（フ  
 ランシス・ン）／梁小龍（フ  
 ルース・リャン）／劉心悠（ア  
 ニー・リュウ）／裴唯瑩（ペ  
 イペイ）／關穎（テリー・ク  
 アン）／中島宏海

## 👁️👁️ みどころ

日本初の人気コミックが、「香港の三池崇史」と呼ばれる鄭保瑞（ソイ・チェン）監督の手によってスタイリッシュな映像に！

軍鶏（シャモ）のような主人公の生きざまには両親殺しの陰がつきまとうが、さてその真相は？また、妹捜しを軸とした人間ドラマの展開は・・・？

クライマックスは『ロッキー』シリーズを彷彿させるK-1戦士魔裊斗との頂上対決だが、金髪、赤眼そしてペロ出しスタイルはいかがなもの・・・？



## ■橋本以蔵と「香港の三池崇史」に注目！■

この香港映画の原作は、日本の映画監督・脚本家であり、コミック原作者でもある橋本以蔵の人気コミック『軍鶏』。つまりこれは、『肩ごしの恋人』（07年）（『シネマルーム16』121頁参照）や08年2月1日に観た『黒い家』（07年）など、日本人が書いた原作が韓国で映画化されているのと同じパターンだ。団塊世代のマンガのバイブルは梶原一騎原作、ちばてつや画による『あしたのジョー』だが、『軍鶏』はその再来を狙ったもの。

もっとも、同じ少年院育ちでも、成嶋亮（余文樂／ショーン・ユー）は名門私立高校に通う裕福な家庭のお坊ちゃんであるにもかかわらず、両親殺しというから前提が現代的だ。しかし、少年院の中で空手家の黒川健児（吳鎮宇／フランシス・ン）と出会い、亮流の空手をつくりあげていくところは、ボクシングと空手の違いこそあれ、矢吹丈と全く同じ？鄭保瑞（ソイ・チェン）監督作品を、私は『ドッグ・バイト・ドッグ』（06年）（『シネマルーム17』掲載予定）ではじめて観たが、ソイ・チェンは「香港の三池崇史」と呼ばれているらしい。それは、そのスタイリッシュな演出に共通点があるためだが、『軍鶏 Shamo』ではその特徴がど

のように・・・？

## ■魔斗にも注目だが・・・■

『軍鶏 Shamoo』には、2007年12月31日の「K-1 PREMIUM 2007 Dynamite!!」で崔龍洙と対戦し、鮮やかなTKO勝ちを収めたK-1 戦士魔斗が、『忍者』(04年)に続いて出演。『忍者』はチャンバラアクションばかりだったため、せっかくの魔斗のK-1ファイターぶりが発揮できず残念だった(『シネマルーム14』257頁参照)。

それに対して、『軍鶏 Shamoo』における亮とのクライマックス対決における本業の格闘技はこれぞホンモノと納得できるものだが、残念ながらそこに至るまでの演技力不足が露呈・・・？演技は素人だからそれはある程度仕方ないが、よく考えてみれば、この映画にホンモノのK-1 戦士を登場させる必要性がどれだけあるのか私には疑問。ストーリー構成上、彼はリーサル・ファイト(LF)の重量級チャンピオン菅原直人という重要な役を演じているが、菅原のセリフを極端に少なくしているのは、素人役者の弱点をあまり目立たなくするため？そう考えると、話題集めのためだけにK-1 戦士を起用するのはいかななもの？

## ■紅三点にも注目！■

『軍鶏 Shamoo』では、紅三点にも注目。まず第1に、亮の妹夏美(裴唯瑩/ペイペイ)が、出番は少ないものの両親殺害事件をめぐる謎めいた存在として節目節目に登場するので注目。ちょっと太め(?)の彼女の次に注目すべき紅三点の2人目は、菅原直人の恋人で女優の船戸萌美(關穎/テリー・クエン)。彼女はK-1 キャスターを務める藤原紀香をモデルとしているらしいが、藤原紀香ほど大柄ではなく、華奢な美人。亮はリーサル・ファイトの主催者望月謙介(梁小龍/ブルース・リャン)の策略によって追放されてしまったリーサル・ファイトのリングで重量級チャンピオンの菅原と対戦するため、萌美に対してある卑劣な行動に及ぶのだが・・・。

紅三点の3人目は、夏美と名乗っていたため亮との心の絆を深めていく風俗店の女である恵(劉心悠/アニー・リュウ)。台湾生まれのアニー・リュウは、『姐御～ANEKO～』(05年)で林嘉欣(カリナ・ラム)に対置される可憐なヒロイン役として登場した期待の新星(『シネマルーム12』181頁参照)。今や彼女は、「舒淇(スー・チー)の後継者」と言われているほどだから、そのスレンダーな姿態と演技力に注目！

## ■新番竜会総帥の実力のほどは・・・？■

番竜会の会長望月謙介のモデルは、K-1の脱税事件で06年12月に懲役1年10カ月の実刑が確定したK-1の石井和義社長であることは明らか。しかし、本作に登場する新番竜会の総帥山崎秀治(郭品超/ディラン・クオ)は、私がネットで調べた限りでは、原作には登場していない？黒川の弟子であった山崎は、望月率いる番竜会に対抗して新番竜会を設立したも

の、残念ながらそれは小さな新興勢力。そこで、亮の才能に目をつけた山崎は、「俺のバックアップでリーサル・ファイトに出場させてやる」と持ちかけたのだが、そこに乗り込んできたのが望月。「問答無用！力には力で！」と道場破りの行為に及ぶ望月に対して山崎が対抗したのはいいが、望月に対する山崎の実力のほどは・・・？

さらに、ここで望月に示した提案は、「山崎を倒せば、リーサル・ファイトに出場させてやる」というもの。こりゃ亮にとっては願ったり叶ったりの提案だ。さあ、ここで展開される亮と山崎との力と力の対決は・・・？山崎を演ずるディラン・クォは背が高くカッコいいハンサムボーイ(?)だが、さて新番竜会の総帥としての実力のほどは・・・？

## ■金髪に赤眼(?)、そしてベロ出しは?頂上決戦は?■

亀田三兄弟への人気は、長男興毅が12戦目(06年8月2日)ファン・ランダエタ、13戦目(06年12月20日)ファン・ランダエタとの再戦、14戦目(07年3月24日)エベラルド・モラレス、15戦目(07年5月23日)イルファン・オガーと勝ち続けていく中で、TBSの密着取材のおかげもあって次第に高まり、最高視聴率が42%に達したことも。しかし、弟の大毅が07年10月11日の対内藤大助戦でサミングやバッティングさらには投げ技(?)などの反則をくり返した末に判定負けを喫してからは、その人気は大きく下降した。興毅は今地道にプロボクサーとしての努力を重ねているようだが、そのお行儀の悪さと言葉遣いの悪さはなお健在・・・？

2007年大晦日の「K-1 PREMIUM 2007 Dynamite!!」はショーアップされた舞台と厳格なルールのもとでの真剣勝負が見どころだが、その観点からみても、この映画で亮がリーサル・ファイトの試合に臨む姿勢には若干問題あり・・・？ムエタイ王者ランカとの対戦中にみられたたくさんの反則(めいた)行為はもちろん、それ以前に気になるのがその風貌。金髪が悪いというつもりはないが、金髪で赤眼(?)、そしていきなり大きくベロを出して挑発する姿は、本人はそれがカッコいいと思っているのかもしれないが、さてそれはいかなるもの・・・？

この映画で、私が亮側の決定的な弱点と思えたのは、ムエタイ王者ランカとの対戦においても良きコーチに恵まれず、我流の練習に明け暮れていたこと。わざわざにアドバイスをしてくれるのは少年院での空手の師匠黒川だが、それだけでは本来不十分なはず。したがって、対ランカ戦には何とか勝利できたものの、リーサル・ファイトで圧倒的な強さを誇るチャンピオン菅原との対戦ともなれば、よほど何かの秘策がなければ勝負にならないはず。しかして、亮は対菅原戦に向けていかなる対策を?そして、遂に迎えた頂上決戦の日。香港の三池崇史監督、ソイ・チェン監督は、『ロッキー』シリーズのハイライトシーンに相当するこの亮VS菅原の頂上決戦を、いかなるスタイリッシュな映像で?それはあなた自身の目で観てのお楽しみに。

2008(平成20)年4月14日記